

県議会議員

# のただ哲生

NoDa Report (県政報告)

vol.2

9月議会 一般質問

MaaSとは...

Mobility as a Service の略。「サービスとしての移動」という意味で、交通政策に関する今後注目の概念であり、県民生活の移動を大きく変えていく可能性があります。サービスの度合いによりレベル0からレベル4まで分けられています。

1

提言

福井県版

## MaaS (マース) の導入を!

北陸新幹線開業まで残り三年半。

福井県はまだレベル0

MaaS レベル2の

次世代型キャッシュレス決済に向けて

問い

これまで、事業者は、時刻表や運賃を自社ホームページに掲載し、独自ソフトによるバスナビの導入など利用者拡大に向け努力しているが、MaaS 分類では独自サービスでありレベル0の「統合なし」である。レベル1は「情報が統合されている」状態で、料金や時間、距離など様々な情報が提供される状態で、スマホでみる乗換案内やグーグルのサービスなど、いわゆるルート検索や料金情報などである。

北陸新幹線敦賀開業が3年半後に迫る中、県民はもちろん、県外からの観光客やインバウンドの移動については、福井県全体を統合した移動サービスを提供する必要がある。県主導による福井県版 MaaS を作成し、MaaS レベル2に向け、クラウド上で決済する次世代型交通キャッシュレス決済の導入についての認識と今後の検討の進め方は?

答弁

MaaS については、新幹線の開業に向け、情報の共有、県の取り組みを検討する為に、県、事業者、市町で協議会を立ち上げ、至急検討していきたい。また、たくさんの方が利用する路線や観光施設を結ぶ路線にはキャッシュレス化やMaaS という事前決済の方式が取り入れられないかということを検討課題にしたい。

### MaaS 導入概念 (レベル)

レベル0	統合なし、移動媒体がそれぞれ独自にサービス提供している現在の交通システムのこと
レベル1	料金・ダイヤ・所要時間・予約状況などといった情報が統合、アプリなどによって利用者へ提供されている
レベル2	目的地までに利用する交通機関を、スマホアプリなどによって一括比較でき、予約・発券・決済をワンストップで可能
レベル3	事業者の連携で、どの交通機関を選択しても目的地までの料金が統一されたり、定額乗り放題サービスができる段階
レベル4	事業者レベルを超え、地方自治体や国が都市計画・政策へMaaS の概念を組み込み、連動・協調して推進する最終段階



# 2

福井鉄道利用者  
年間200万人超も、

残された課題



## 大名町交差点

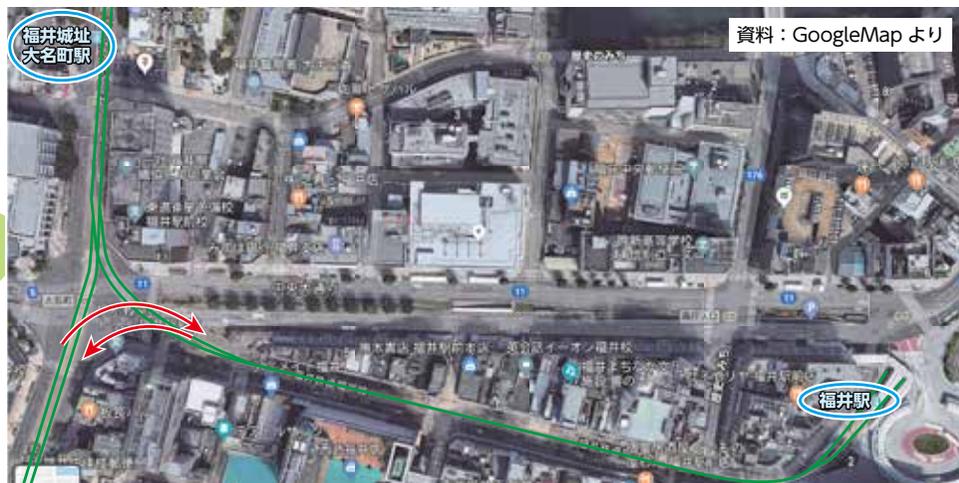
# 短絡線を整備し 福井駅との結節拠点に！

### 問い

福井鉄道の利便性向上について、現在のダイヤを増やせない残された課題がある。福井鉄道は駅前広場へ乗り入れているにもかかわらず、実際は JR 福井駅を拠点にできていない。半分以上の電車が駅前広場に乗り入れできず、利用者は JR 福井駅に行きたくても、福井城趾大名町駅で降りて約 800 メートル歩かなければならない。福井鉄道の利便性を高めるためには、大名町交差点の短絡線の整備（下図の赤い部分）が必要不可欠である。この福井鉄道駅前線は、新幹線開業後は二次交通の起点となる重要な路線である為、開業までに多くの便数が確保できるよう短絡線を整備すべきであるが、課題は何か？

### 答弁

多くの人と電車数をさばくためには、線路を複線（約 20 億円）にして駅前電車通りに入れる必要がある。そうすれば道路を 1 車線潰す必要があり、商店街の荷下ろしができない問題が出てきたり、車の便が悪くなったりと、商店街の方にも大きな不便をかける。この状況で 3 年半後までに物理的に工事を終わるということは難しい。少しでも乗りかえの利便性を向上させる為に並行在来線と福井鉄道、えちぜん鉄道の乗り継ぎダイヤをうまく合わせ、それこそ MaaS という概念を発信をしていくことで乗り換え利便性を上げていきたい。



### 再質問

20 年以上前から短絡線の整備計画は存在している。200 万人を超える利用者が駅前に入ってくることに對して、駅前の商店街の方としっかり議論し、もし一方通行になるなら交通の流れ方も非常に大事になってくる。再開発計画も進んでいるが、その計画と一体となって、新幹線開業に間に合わないとは諦めるのではなく、しっかり議論して取り組むべきだと思うが。

### 答弁

時間軸では決して諦めるわけではなく、私（知事）が居なかった 3 年間も議論していたようだが一つの解が見出せなかったのが簡単ではない。まずは実現できることを確実に進め、新幹線の開業をにらみながら結節点として利便性が上がるよう考えていきたい。

# 総務教育常任委員会

## 県で働く男性職員の育児休業取得率 0.6%、全国ワースト 3 位！

都道府県職員の男性の育休取得率が平均 3.1%。福井県は 0.6% で全国 45 位。順位でなく、345 人の対象者のうち 2 人しか取っていない実態が問題である。おそらく現状は、取得する男性が普通でないという概念が根付いている。なぜ、福井県は進まないのか、その要因は？総務部はこれまでどのように男性育休の取得推進を周知してきたのか。

**答弁** 県では「パパの子育て応援手帳」というものをつくり職員に勧奨している。三世代同居や配偶者との役割分担で取らない方もいる一方で、仕事が忙しく取りたくても取れない、職場に気兼ねしているという理由であれば、取りやすい環境が必要である。育児休業の取得率が高い先進県は、配偶者が妊娠・出産した職員を即座に把握した上で、管理職からの勧奨や職場環境の向上をしっかりと実施していると聞いているので、十分参考にして取り組みたい。



## JR に変わる並行在来線を第 3 セクターで運営する前に新駅の調査条件を！

代表質問の答弁で、新駅の設置は、利用者数を増やす重要な項目の一つであるとあった。ただ、駅間距離が概ね 4 km 以上と考えていると答弁しているが、この距離の条件となれば、新駅の可能性がある場所を打ち消してしまうのでは？

**答弁** 駅間距離が 4 km を超えるところは、1 つの目安として候補になり得る。それだけでなく、学校とか病院とか、新しい住宅が建つようなものが見込めるかなど総合的に勘案して検討したい。新駅をつくって、結果的に駅間距離が 2 km になることは、もちろん考えられる。  
※令和 3 年の経営計画策定時までに、新駅の候補地を選定予定。

# 予算決算特別委員会・総務教育分科会

## フレンドリーバス運行事業について

**Q1** フレンドリーバスはこども歴史文化館や県立図書館などの公共施設を無料で結ぶ交通機関であり、県が年間約 4 千万円の運行費用をかけている。県内には他にも多くの公共施設もあるし、郊外ではバスも通っていない地域もあり、県民への公平性という所で非常に疑問を感じる。

**答弁** フレンドリーバスは、県立図書館が郊外に立地した時点から走らせている。利用者も多く、現在年間約 7 万人の方が利用している。そのうち 1 割程度は高校生が利用している。他の地域との兼ね合いについても考えてはいるが、郊外にある施設を利用していただくという観点から、フレンドリーバスについては継続させていきたい。



## システムの請負率について

**Q2** 全庁的にオンラインシステムの改修や保守などは業者との随意契約が多く、請負率 100% で落札しているケースが多く見られる。専門的な技術や、既システムのメーカーしか出来ないメンテナンスが必要である理由だと思うが、他の業種は厳しい競争入札をしていることも鑑みると、請負率 100% というのは違和感がある。今後、県庁内にも AI や IoT が導入されていく中で、数年毎のメンテナンスも含めた、例えば一括で発注するプロポーザル（提案型の発注方法）の考えも必要ではないか。

**答弁** 随意契約しないといけない場合は確かにあって、それぞれの個別事情があるが、基本的には入札をして、より安価で業務を行ってもらうことが財政課としても望ましい形だと認識している。引き続き会計局とも連携しながら、一般競争入札等の推進等について各部局に伝えていきたい。



聞くのだ やるのだ つくるのだ

もっと **イイ!**  **福井県を!!**

視察

Inspection

## 原子力総合防災訓練

今年、UPZ 圏域（美浜発電所から半径 30km 以内）の広域避難訓練を実施。若狭町の旧岬小学校では自衛隊の大型ヘリコプター（チヌーク）による避難や、サンドーム駐車場では放射能除染のスクリーニング訓練を視察しました。しかし、まだ美浜地域には広域避難計画が策定されていないという課題もあります。



活動

Activities

## 社南災害キャンプ

小学生と保護者に学校に泊って避難所生活を体験してもらう「災害キャンプ」。主催は社南青年会で今年 4 年目の開催です。悲願であった県の防災ヘリコプターにも協力してもらい、人文字で SOS を描き、救援物資を運んでもらいました。



活動

Activities

## ReLIFE (有志のグループ) ふるさと納税型クラウドファンディングがスタート

ReLIFE は、福井県あわら市熊坂地区の自然豊かな土地を活かし「学び」「仕事」「遊び」の開発を行うことを目的に今年結成されました。「体験を通じて現代人が忘れかけていた自然とのつながりを持ち帰って欲しい!」という想いから里山を改修し、アウトドアフィールドを作るプロジェクトを立ち上げました。私もその一員として参加しています。

今年希少野菜の種付から収穫までを体験するビニールハウス設置と、収穫後の作物を調理して楽しく味わう「森のテラス」を設置したいとメンバーが頑張っています。

11 月末まで、ふるさと納税型のクラウドファンディングに挑戦しています。100 万円達成を目標に皆様の応援をお待ちしています。(QR コードをスキャンしてみてください。)



※ロゴ外へ裏に刺す。

